

# いわき探検記



2023年10月 Vol. 20  
地域おこし協力隊  
辻村 春香

9月初めはうだるような暑さ。「これが弘前の9月か？」という気温でした。夏の間、干された畑の土も、9月の雨でようやく潤い、間の抜けた収穫のヤマを迎えた野菜もいくつかありますね。

9月下旬に入ると、ようやく秋めいてきましたが、今後は一気に気温が下がり、朝晩の冷えを感じました。

日も短くなり、また農作業も忙しい時期に入りましたので、皆さま、健康にはお気を付けください。

企画・運営に携わっています!

## 居場所づくり “みんなの居場所ステップ44”

### 9月16日(土) “獅子張り” って何だろう?

9月16日は、旧暦の8月2日に当たります。この日は、500年以上続く五代獅子舞にとって、年に1度の行事“獅子張り”がおこなわれます。

1年間使った獅子頭や幕を点検し、ほつれがある場合には繕いをし、壊れている部分は直し、乱れている部分は整えます。

この日の“居場所づくり”参加者はゼロ。ですが、こんな機会は滅多にないので、獅子張りの作業を見学させていただきました。

時間的制約等もあり、今回は“お手入れ”程度で、修理はおこなうことができませんでした。しかし、「来年こそはここを直したい」という部分が見つかり、獅子舞の月2回の練習の折々に準備すべきものを確認し、来年の獅子張りに備えるそうです。



獅子頭を直したあとは、神様に報告し、拝礼。“獅子張り”の夜も、「直しましたよ」の報告で、獅子舞が奉納されています。

... 作業風景を写真撮影し損ねました。夕方からは、獅子張りに参加できなかったメンバーも集まって、獅子舞が奉納されました。

### 次回予告

10月21日(土) 13:00~  
野原の草で「ほうき」を作ろう!

### 参加者募集中

### 11月11日(土) 9:00~ 干し柿をつくってみよう!

干し柿好きのあなた。もしかして、いつも購入して召し上がっていませんか?

「昔は作っていたけど」という方もいらっしゃるかもしれません。ですが、私世代はむしろ「干し柿ってどうつくるの...?」という感覚。私も干し柿づくり3年生。

干し柿のつくり方を覚えて、お手製の干し柿にチャレンジしてみませんか?

意外に簡単で、子どもでもつくれますので、ぜひご参加ください。

実施:11月11日(土) 9:00~ ⇒詳細はチラシをご参照ください。

みんなの居場所 ステップ44

### 干し柿を作ってみよう!

干し柿、好きですか? 私たち世代は干し柿は大好きで、マツコトバコトバという方も多くいらっしゃいます。作り方を覚えると、意外に簡単で20年くらいは楽しめます。

昔の干し柿には「柿の種(柿の種)」を乾燥して入れておきます。柿の種が甘くなることで、干し柿が甘くなるからです。マツコトバコトバという方も多くいらっしゃいます。

日時: 2023/11/11(土) 09:00~11:00  
場所: 五代多目的体育館(五代町五代字道137)  
参加人数: 10名程度【先着順】  
※小学生以下の子で参加の場合は、保護者同席  
参加費: 300円(材料費、保険料等)  
持ち物: エプロン、ビニール、袋など(各自自由に持参可)  
備前: 持ち帰りになります。

※当日作業はほかはお待ちいただけます。

お申し込み先: QRコードからお申し込みください。  
11月11日 17:00まで  
申し込み先: 辻村春香  
02-1621(平日9:30~17:00)  
Eメール: mshpo.step44@gmail.com

次回予告  
リースづくりにチャレンジ  
12月16日 9:00~(変更の可能性あり)

【みんなの居場所 ステップ44】とは  
本事業を通じて多世代交流を図ります。  
干し柿作りを通して交流を図ります。

事務局: 辻村春香(五代町五代字道137)  
Eメール: mshpo.step44@gmail.com  
電話: 02-1621(平日9:30~17:00)

## 刈払い機 デビューしました！

今年の夏。忙しさにかまけて畑になかなか行けず。行けたとしても暑さに負けて早々に撤退を繰り返す日々でした。

昨年以上に草の勢いに負け、もはや人力での限界を感じ、刈払い機を導入。

ようやく過ごしやすいさを感じるようになった9月中旬、畑での刈払い機デビューを果たしました。

葛原⇒高屋⇒一町田の順で、畑として使用している部分の周辺を中心に刈払いを実施。畑全面には至ることができなかったため、それは10月の仕事にしたいと思います。

日を追うごとに、刈払い機の使い方のコツが見つかり、少しずつキレイに刈れるようになってきました。

文明の利器って、スゴイ！！



写真ではうまくわかりませんが、左が刈払い前、右が刈払い後。

写真の左上方の濃い緑は青豆ダイズですが、イネ科の雑草で根本も見えないありさまでした。

刈払い後に、雑草エリアとダイズエリア境界に溝になっている部分を発見し、足元が見えないのは危ないと反省しました。

## 1%事業「こぎんと麻布」映画祭 無事終了

9月2日(土)、中央公民館岩木館の大ホールで決行しました。

「麻糸産み」の講習会で受講生として参加してくださった方たちと企画・実行した映画祭でした。実施前は予約が伸びず、どうしたものかと思ひ悩んでおりました。

映画「麻てらす」の内容については、「こぎんの素材としての大麻については知っていたが、日本国内でいろんな場面や用途に使われていたということを知った」という声もいただきました。

また、映画「からむしのこえ」では、カラムシ栽培が種蒔き～収穫、収穫直後の処理と“おひき(=繊維を採る作業)”、繊維の出荷までの流れのほか、糸づくり、機織り、布にする工程までのカラムシの一生を追うことができ、津軽の先人たちへ思いをはせた方も多くいらしたようです。

【アンケート結果より】

展示としては、予定通り高屋地区“ゆめみるこぎん館”の石田さんが展示品をご披露・ご案内くださり、また、弘前市内の写真家・八木橋廣氏から、カラムシの栽培過程を市内で撮影したものを15点、A3の大判写真(フレーム付き)でお借りして展示することができました。

2つとも、休憩時間には参加者が絶えることなく展示に見入っていました。

そのほか、私の手持ちの麻・カラムシを展示させていただきました。それぞれ糸にする工程がわかるように展示し、触ることもできたので、参加者の興味を引いたようです。お手伝いに来てくれた友人は、カラムシの株を持ってきてくれ、展示の説明も担ってくれました。カラムシを見た参加者からは「近所にあるわ」「カラムシってこんなに背が高いんだっけ」等の声も。



なんとか盛況に終わり、ほっとしています。

## 今年の試み “ホウキモロコシ” の栽培

今年の試み “ホウキモロコシ” の栽培

一町田の畑で今年育てているのは、ダイズ・ハトムギ・ヤブツルアズキに加えてホウキモロコシ。ホウキモロコシは、その名のとおり箒をつくるトウモロコシの仲間の高黍（たかきび）類。

雑穀の国・岩手県内の種苗店に行き、タネを購入しました。

いえね、一昨年インターネットでタネを購入したら、岩手県発・東京経由で私の手元にきたので「もうこれは、直接岩手県の種苗店に行った方が早いのでは？」と思って春に訪ねたのです。

なんとかネットで調べながら、ホウキモロコシを育てて9月に収穫しましたが。在来種なので、種もとれますが。いったいどうやってほうきにすればよいのだろう…？

そう思っていたところ、10月初旬に教えていただく機会を得たので、うちの収穫したホウキモロコシ、どんな姿にできるのか楽しみになってきました。

次回までにウチの収穫物で、ほうき作れるでしょうか？

ですが、その前に、「足踏み式の脱穀機」が欲しいこの頃。ハトムギもホウキモロコシにも、必須のアイテム。

譲ってくれる方の情報を募集していますので、そちらもよろしくお願いいたします。

一町田の畑で収穫したホウキモロコシ。栽培についても課題あり。収穫後の処理についても課題あり。



## 映画祭での出会い

この映画祭でいくつかの出会いがありました。

展示準備の折には、見回りにきた警備員さんがカラムシに詳しい方で、いろいろお話をいただきました。準備に参加している仲間がお話伺っていたのですが、私は余裕がなく、お話しできませんでした。改めてお話聞けたら…と思っています。

映画祭、開場直後。受付にお声がけくださった男性がお一方。「これ、使うか？」とおっしゃって、お持ちになったものをみせていただくと、古い麻束と古いカラムシ束。「家にあったんだ。たぶん、私のば様あたりが扱ってたんだも」と。

映画祭の最中、お借りして、他の展示品と一緒に展示することにいたしました。このような民俗資料がまだまだ岩木にもあるということを知り、もっと調べたい・見たい・知りたいという気持ちが大きくなりました。

その他、ゲストやお客様との出会いがありました。

当日は私個人に余裕がなく、ほぼどなたともお話できないありさまで、いろいろと後悔が…。参加者の方々は横のつながりがある方が多いらしく、あちらこちらでコロナ後の再会の喜びなどが聞こえてきました。私の知人と知り合いの方も多かったので、知人を介してまたお話しする機会をつくりたいと思います。

## その後のカラムシの成長

7月末～8月に採取した葛原地区の野生のカラムシ。

9月末に確認しに行ったところ、1,2～1.5mほどに成長していました。

夏に刈ったせいか、まだ背が低いせいか、枝葉がたくさん出ていて、繊維を採るには節が多そうな感じでした。

また、映画祭のときに浪岡からカラムシの株を持ってきてくれた友人が言っていた「花というか実というか、秋にはそういうのが出てきて」という状態でした。

先月の実験のあとに聞いた話では、「アクが出るので前の晩に刈って表皮を剥ぎ、ひと晩浸けておく」とも言い、3時間～半日、アク抜きのために水にさらすという情報でした。

来年はこの方法でも繊維採取を実施しようと思います。  
(⇒ワークショップを企画するなら、この方式のほうが現実的)



## ◆◇ 編集後記 ◇◇

9月は前半に大混乱の山場を越え、そろそろ畑の世話をしなければと思い立ったころ。しかし引越しも重なり、やろうとしたことが思うように進まない月でもありました。

相変わらずせわしない私ですが、またしてもいろんな出会いがあり、いろんな方にお世話になりながら、学び多き1カ月であったような気がします。

## WANTED

探しています!

### ①脱穀機を探しています

足踏み式もしくはモーター式の回転式脱穀機を譲ってくださる方を探しています。

稼働可能な状態のものを探しています。

小屋の片隅に  
眠っていませんか!?

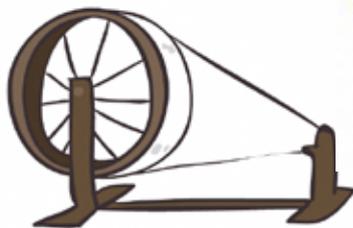


### ②夜生活に関わる民具を探しています。

現在、糸績みの講座を外部講師をお招きして開催しています。

受講生同士の交流で「地元の衣服に関する民具」がなくなりつつあることがわかりました。

カラムシや麻の繊維をとるのに使った道具や、糸車、紡錘車、機織り機など、衣服に関する民具を探しています。



いずれも、情報いただけましたら、状態の確認に伺わせていただきたいと思います。  
どうぞよろしくお願いいたします。

連絡先  
岩木総合支所 総務課

地域おこし協力隊 辻村まで

Tel: 0172-82-1621

Mail: har-tsujimura@city.hirosaki.lg.jp

もろもろ情報  
お待ちしております!



「いわき探検記」の直近のバックナンバーは、市のホームページからご覧になれます。

古いものは、岩木庁舎でファイルしております。ご覧になりたい方は、岩木庁舎まで。